

令和8年 かすみがうら市議会 第3回定例会

所信表明



かすみがうら市

令和8年 かすみがうら市議会 第3回定例会

所 信 表 明

令和8年9月1日

市長就任にあたり、私の市政運営に対する所信の一端を申し述べ、市議会議員の皆様、市民の皆様に、ご理解とご協力を賜りたいと存じます。

このたび、市民の皆様の負託を受け、かすみがうら市長として市政を担うこととなりました。まずもって、この大きな任を託していただいた市民の皆様に、心から感謝を申し上げます。

同時に、このたびの無投票当選という結果を重く受け止めております。選挙戦を経なかったからこそ、私に寄せられた期待の大きさと責任の重さをより一層厳粛に受け止め、これまで以上に市民の皆様の声に耳を傾け、丁寧な対話を重ねていかなければならないと、決意を新たにしております。

古代中国の思想家である列子は、「天下の身を公（おおやけ）にす」という言葉を残しました。これは、自分自身を公（おおやけ）の存在とし、世の中のすべての人々の幸福を我が事のように考えて行動する姿勢を示したものです。この言葉のとおり、私もまた私心を捨て、市民の皆様のために全身全霊を捧げる覚悟です。

市長の仕事とは、市民の皆様、市議会議員、職員、地域で活動される皆様、企業や関連団体の皆様など、このまちに関わるすべての方々とともに、未来をつくっていく営みであると考えています。

私は、「現場主義」を徹底し、丁寧な対話を重ねながら、課題に対して果敢に挑戦してまいります。

現在、地方自治体を取り巻く環境は、かつてないほど大きく変化

しております。人口減少や少子高齢化、社会保障費の増加、公共施設やインフラの老朽化、激甚化する自然災害。さらには、エネルギー価格や物価の高騰など、私たちが直面する課題は複雑化・多様化しております。

しかし、こうした課題を前に、かすみがうら市がただ縮小していくことを受け入れる必要はありません。

課題があるからこそ知恵を出し、制約があるからこそ工夫を凝らし、変化の時代だからこそ、新しい一步を踏み出す。

私は、かすみがうら市を「どうすればできるかを考え、挑戦するまち」へと変えてまいります。掲げるメッセージは、「挑む姿を、この街の風景に」です。

市民が、事業者が、地域が、そして市役所自身が挑戦する。その生き生きとした姿がまちの至るところで見ることができる、活気あふれる市を創り上げてまいります。

そのために、私は市政運営において、3つの姿勢を貫いてまいります。

第一に、「寛容」です。

まちの未来をつくる力は、行政だけが持っているものではありません。

市民の皆様の経験や知恵、地域で活動する方々の情熱、企業や民間事業者の技術やアイデア、若い世代の新しい感性、そして子どもたちの自由な発想。

これら多様な力を寛容に受け入れ、つなげていくことこそが、これからの自治体経営には不可欠です。行政だけで抱え込むのではなく、「一緒にやりましょう」と、誰もが参画できる開かれた市役所を目指します。

第二に、「結集」です。

複雑な地域課題に、簡単な解はありません。だからこそ、知恵を集め、議論を尽くします。

市民と行政、行政と議会、地域と企業、そして、市役所内部の部局の壁を越えて議論を重ね、立場の違いを乗り越え、「かすみがうら市の未来」という一点に向け、すべての知恵と力を結集してまいります。

第三に、「始動」です。

議論を重ねることは極めて重要ですが、それだけでは、まちは変わりません。完璧な計画を待ち続けるのではなく、現場の声を聞き、まず第一歩を踏み出す。実行し、検証し、改善する。迅速に行動を起こす市政へと脱皮してまいります。

ここから、私が推進する「5つの約束（重点政策）」について申し上げます。

第1の柱は、「まちごと病院」構想の推進です。

健康と暮らしの安心は、単に病院の診察室の中だけで完結するものではありません。医療・福祉・介護という行政分野の枠組みを超え、地域、学校、家庭、そして日々の暮らしのあらゆる場面が緩やかにつながり、総合的に支えあってこそ維持されるのです。

私は、かすみがうら市全体を、地域全体で支え合う一つの大きな「安心のネットワーク」として捉え直します。

医療機関や介護施設が事業者の枠を越えて連携し、備品の共同購入によるコスト削減、合同研修や人材の相互融通を行う新たな協力体制づくりを推進します。さらに、オンライン医療相談やオンライン診療などデジタル技術を活用し、医療アクセスの向上を図ります。あわせて、地域サロンや公民館でのフレイル予防や孤立の防止、お

困りごとの相談体制を強化します。

高齢者も、障害がある方も、子育て世代も、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「日本一健やかに暮らせるまち」を目指します。

第2の柱は、「未来への投資」です。

子どもたちは、このかすみがうら市の未来そのものであり、希望です。これからの教育は、単に知識やスキルを一方的に習得することにとどまらず、自らの可能性を広げ、失敗を恐れずに挑戦と試行錯誤を繰り返す「生きる力」を育むものでなければなりません。

私は、子どもたちが心から「行きたくなる」学校づくりを目指し、時代に即した教育大綱の刷新に取り組むとともに、新たな風と多様な視点を呼び込むため、市内小中・義務教育において民間人を含む校長の公募を実施してまいります。

また、子どもたちの「夢中」を全力で支援します。誰もがスポーツに励める持続可能で魅力的なスポーツ環境の整備を進めるとともに、「市長杯」の拡充などを通じて、挑戦する意欲を高め、努力が称えられる挑戦文化を醸成してまいります。

子どもたちが、「このまちで学び、大きく羽ばたきたい」と思える魅力的で開かれた教育環境を整え、子育て世代からも「かすみがうら市で子どもを産み、育て、ともに暮らしたい」と心から実感していただけるまちづくりを進めます。

第3の柱は、「地域経営の実践」です。

充実した市民サービスや福祉、インフラを持続可能なものとするためには、「限られた財源の配分」とにとどまらず、地域社会全体でいかに価値と財源を創出するか」という『稼ぐ力』の視点が不可欠です。

特に、農業の持続可能性こそが、まちの100、200年先を創る礎で

あります。深刻な鳥獣被害などの課題に正面から向き合い、農業の担い手の育成や農地を安定的に活用できる環境を整え、生産基盤を強化します。

また、霞ヶ浦や山々の恵み、農水産物、歴史文化といった誇るべき地域資源を「選ばれる価値」へ磨き上げ、地域外からの資金を資源保全へ再投資する循環を確立します。

さらに、私自身が先頭に立つトップセールスによる企業誘致を進めるとともに、PPP・PFIなど官民連携やエリアマネジメントの視点を取り入れ、エリア全体の付加価値向上と市外からの投資を呼び込みます。

民間活力を最大限に引き出し、地域の経済循環を太く力強いものとし、そこで得られた成果や財源を、子育て、教育、福祉、インフラ整備へと着実に還元してまいります。

第4の柱は、「強靱なまちづくり」です。

市民の生命と日々の暮らしを守る重要な基盤である道路、橋梁、上下水道などのインフラは、将来の人口や利用需要、維持管理費を見据え、受益と負担のあり方について市民の皆様とオープンな対話を重ねながら、次の世代に責任を持てる戦略的なインフラ経営へと転換します。

さらに、何より重要なのは、市民の誰もが犯罪や事故に巻き込まれず安心して暮らせる「地域の安全・安心」の確立です。県警察と連携した、次世代を守る「闇バイト」徹底排除に向けた取組や集落の出入り口への防犯カメラ設置などを通じて、防犯体制を強化し、子どもから高齢者までが安全に生活できるまちづくりを進めます。

そして、この強靱さを支える真の要は、「地域コミュニティの強さ」にあります。時代に即した行政区のあり方について検討を進めながら、地域活動の担い手不足や現場負担の軽減を図り、持続可能な共助の基盤を再構築してまいります。

第5の柱は、「市役所の再起動」です。

行政が時代の変化に俊敏に対応し、市民ニーズに応え続けるためには、市役所という組織自体が常に変革し、挑戦し続ける組織へ脱皮しなければなりません。

本市には「地域を良くしたい」という高い使命感と熱意を持つ職員がたくさんいます。私は、市役所をすべての職員がその能力と志を存分に発揮できる舞台にしたいと考えています。

日々の現場で市民に寄り添い、誠実に責任を果たしている職員の確実な実務への評価を大切にしながら、前例踏襲や「失敗を恐れる」減点主義の風土を打ち破り、新たな挑戦を後押しします。

大切なのは、何を目指し、市民のために何が良くなり、そこから何を学んだのかという過程です。

日々の業務を真面目に支える職員も、新たな課題に果敢に挑む職員も、それぞれの現場で市民のために行動する努力が正当に報われる評価制度を整え、人材育成への投資も積極的に行います。

職員一人ひとりの成長が市役所を変え、市役所の変化がまちを変える好循環を生み出してまいります。

以上、5つの重点政策について申し上げました。

政策の実現にあたっては、限られた財源や人員、時間の中で、何を優先し、何を選択すべきか、市長として厳しい判断を迫られる場面もございます。その際には、多角的な意見に耳を傾け、議論を恐れず、責任を持って決断を下してまいります。

かすみがうら市には、まだ見ぬ大きな可能性が眠っています。もっと挑戦でき、もっと魅力を高められ、もっと市民の皆様が誇りを持てるまちになれると確信しております。

子どもたちが「このまちに生まれてよかった」と思える未来。
若い世代が「このまちで暮らし、働き、挑みたい」と思える未来。
高齢者の皆様が「このまちで安心して過ごせて幸せだ」と思える未来。

そして、すべての市民の皆様が、「かすみがうら市に生まれて、生きて、本当によかった」と胸を張れる未来。

その未来を、市議会議員の皆様、そして、市民の皆様とともに創り上げてまいります。

「挑む姿を、この街の風景に」。この言葉を、旗印に、一步ずつ着実に前へ進んでまいり所存です。

市議会議員の皆様、並びに市民の皆様の深いご理解とご協力を心からお願い申し上げ、私の所信表明といたします。